■尾州の知と技　「ＦＤＣ匠ネットワーク」メンバー紹介④

ＦＤＣ匠ネットワークメンバーに聞く

――――――――――質問します――――――――――

質問１：職歴は？　**質問２**：主に携わった業務は？　**質問３**：尾州産地の現状認識は？
質問４：貴方が伝承しているもの（こと）は？　**質問５**：その伝承に必要なもの（こと）は？
質問６：ＪＢ東京展での訴求ポイントは？

競業から協業で、企業間ネットワーク構築を

メンズ生地の匠・飯田耕三さん（所属・神田毛織）

質問１：１９６０年　協和毛織勤務
１９７７年　富士テキスタイル勤務
１９８９年　神田毛織勤務現在に至る

質問２：主に紳士物の企画、デザイン一筋

質問３：多品種少量生産と短納期が生きる道。そのためには企業間のネットワークが必要。競業から協業へ、それが産地活性化の道である。

質問４：天然繊維同士の交織や化合繊との交織。それによる新しいファブリックの創造。

質問５：技を伝承する人材の育成が大切であるが、それをオープンにする企業努力と効果的にネットできる場やシステムが欲しい。

質問６：紡績－撚糸－織編－仕上げ加工の技の連携とその相乗効果。

今の流れをキャッチした経営はよい方向に

婦人生地の匠・小澤賢一さん（所属・オザワファブリック）

質問１：１９６０年　日興毛織入社企画課所属
１９７０年　資材、機械購入担当
１９７５年　紳士織物営業企画
１９８６年　婦人服地販売立ち上げ
１９９０年　関西地区販売担当
１９９６年　婦人服地販売企画
２００１年　販売企画会社設立現在に至る。

質問２：紳士織物企画－婦人織物企画－販売

質問３：ファッション産業の現状と今の流れを早くキャッチした前に出るトップが経営する会社は、往時よりは少し悪いが、シュリンクした中でも良い方向に向かっている。人材も育っている。

質問４：アパレルおよび小売に対する物づくりと納期管理。

質問５：人材の育成と自立できる資金回収のサポート。

質問６：今のトレンド＋ αの物作り提案。